

ホロヴィッツが恋したピアノ《CD75》
29年の時を経て、再びコンサートステージへ！

Akira Eguchi Piano Recital "Power of Piano"

江口 玲 ピアノリサイタル

甦る奇跡! 江口 玲が伝説の銘器 《CD75》でリストを語る

フランツ・リスト

Franz Liszt (1811~1886)

巡礼の年第2年「イタリア」全曲

Deuxième Année: Italie

婚礼 - ラファエロの「聖母の婚礼」による

Sposalizio

物思いに沈む人 - ミケランジェロの彫刻による

Il Penseroso

サルヴァトル・ローザのカンツォネッタ

Canzonetta del Salvator Rosa

ペトラルカのソネット 第47番

Sonetto 47 del Petrarca

ペトラルカのソネット 第104番

Sonetto 104 del Petrarca

ペトラルカのソネット 第123番

Sonetto 123 del Petrarca

ダンテを読んで: ソナタ風幻想曲

Après une Lecture de Dante: Fantasia Quasi Sonata

バラード 第2番

Ballade No.2

コンソレーション 第3番

Consolation No.3

アルカデルトの「アヴェ・マリア」

Ave Maria d'Arcadelt

リゴレットによる演奏会用パラフレーズ

Paraphrase de concert sur Rigoletto

ハンガリアン・ラブソディ 第2番 (ホロヴィッツ編)

Hungarian Rhapsody No.2 arr. by V. Horowitz

2012年 6月19日 (火)

19時開演 (18時30分開場)

Tuesday, June 19, 2012, at 7 p.m. Hamarikyu Asahi Hall

● 浜離宮朝日ホール

全指定席 4,000円

主催: タカギクラヴィア株式会社 / 朝日新聞社 / KAJIMOTO

<http://www.takagiklavier.com/>

お問い合わせ:  タカギクラヴィア株式会社

TEL.03-3770-9611

このピアノを聴かずしてクラシックを語るなかれ

ホロヴィッツのあの音色は、奏法によるものか、あるいはピアノそのものが違うのか…。

《CD75》これほど世界中から脚光を浴びるピアノは他にないであろう。

その秘密のベールに包まれたピアノが、2011年5月、ニューヨークよりタカギクラヴィアのC&A(コンサート&アーティスト部)に到着した。それは29年前の1983年6月、あの衝撃のホロヴィッツ初来日リサイタル(NHKホール)時と、ほぼ変わらない姿だった。

ホロヴィッツは、スタインウェイ社にとっても特別な存在であった。彼が自分の楽器以外をほとんど弾かなかったことは非常に有名である。またそれを許された唯一のピアニストでもあった。

当時、巨匠と呼ばれたアーティストたちが、コンサートやレコーディングにスタインウェイ社で選定したピアノを持ってくることは普通のことであったが、その役目を終えたピアノは、また他のアーティストに貸し出されていく。しかしホロヴィッツが気に入ったピアノは、その後ホロヴィッツ専用のピアノになり、許可なく他のピアニストに貸し出されることはなかった。グレン・グールドやミケランジェリですら、貸出用の楽器を自宅に運び込んだり自らの専用にするのができなかったことをみても、ホロヴィッツだけが特別だったのだ。

ホロヴィッツが恋したピアノ《CD75》は、1912年6月19日生まれである。そしてコンサート当日100歳を迎える。

クラシックピアニスト最後の巨匠、ウラディミール・ホロヴィッツがなぜここまでピアノにこだわったのかの答えが、この日、明らかになるだろう。

高木 裕 (タカギクラヴィア株式会社 代表取締役)

History of CD75 By Tali Mahanor

■1912年6月19日生まれ 製造番号 #156975。

完成後すぐ Steinway&Sons のコンサート部に納入され、貸出用のピアノとして、いくつかのコンサートで活躍する。

■1970年代後半ホロヴィッツ専用ピアノとなる。

このいきさつについては、フランツ・モアの著書「ピアノの巨匠たちとともに」に詳しく記されている。

■1981~1982年、ミネアポリス、ボストン、ワシントンなど全米ツアーで使用される。

■1981.6.24~9.24, 1982.10.19~1983.8.26の2度、自宅に運び込まれた。

■1981.11.1 Metropolitan Opera House (NY)

このコンサートはライブ録音され、CD「Horowitz at the Met」として販売されている。

■1982.5.22~23 Royal Festival Hall (London)

チャールズ皇太子(当時)がホロヴィッツを招待して開催されたこのコンサートでは、ウィリアムズ皇太子誕生間近なダイアナ妃に捧げる「トロイメライ〜シューマン / 子供の情景」も奏された。このコンサートは録音&録画され、「Horowitz in London」としてCDとVHSが発売されている。

■1983.6.11 NHK Hall (Tokyo)

ホロヴィッツ初来日の記念すべきコンサート。このコンサート後、ホロヴィッツがなぜこの楽器を選んだのかを徹底的に研究するために、CD75はスタインウェイ社のResarch & Development部(研究開発部)に入った。



江口 玲 | ピアノ

Akira Eguchi | Piano



東京藝大附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、その後ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。1992年に大成功を収めた、アリスタリーホールでのニューヨークリサイタルデビュー以来、アメリカ、ヨーロッパ、アジアでの主要演奏会場にて演奏を続けてきた。ニューヨークタイムズ紙からは「非凡なる芸術性、円熟、知性」「流暢かつ清廉なるピアニスト」と賞賛され、これまでにカーネギーホールはじめ、演奏で訪れた国は25カ国に及ぶ。

欧米及び日本をはじめとするアジア各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲などで活躍しているほか、ギル・シャハム、竹澤恭子、アン・アキコ・マイヤースほか、数多くのヴァイオリニストたちと共演している。

レコーディングはドイツグラモフォン、フィリップス等で計30枚以上のCDを録音、NYS CLASSICSよりリリースされている6枚のソロアルバムも、レコード芸術誌で特選盤に選出されるなど、高い評価を得ている。

2011年5月まで、ニューヨーク市立大学ブルックリン校にて教鞭を執る。2006年より洗足学園音楽大学大学院の客員教授を務めるほか、2011年4月より、東京藝術大学ピアノ科の准教授に就任。現在もニューヨークと日本を行き来して演奏活動を行っている。

カジモトイープラス 0570-06-9960
タカギクラヴィア株式会社 03-3770-9611
朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990
イープラス <http://eplus.jp>
チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード: 159-950)

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用ください。

一般発売: 1月19日(木) 10:00

カジモトイープラス 0570-06-9960

音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。

ホームページからお申し込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

<http://kajimotoeplus.com/>

KAJIMOTO

〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル TEL:03-3574-0550
<http://www.kajimotoeplus.com/>



便利なケータイサイトも是非ご利用ください。
iモード、Ezweb、Yahoo! ケータイ対応
チケットもご購入いただけます。
カジモトイープラス

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目の変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。
●未開封の購入時はご連絡させていただきます。